

ブランド力上昇

「千葉工大生が欲しい」



産学懇談会に詰めかけた企業の人事・採用担当者たち



千葉工業大学産学懇談会

本学が企業と親睦を深め、学生の就職情報を交換し合う今年度の「産学懇談会」が11月2日、ホテルニューオータニ幕張で開かれ、過去最多を記録した昨年をさらに54社上回る559社から人事・採用担当者583人が出席した。企業の採用意欲が依然旺盛なことに加え、本学のブランド力が上昇し、「千葉工大生に対する期待が高まっていることが背景にある。

産学懇に最多559社

業種別では建築・土木、機械、電気、情報・通信などのIT関連が依然として旺盛な採用意欲を見せている。技術営業担当を求むる商社、製造ラインに関わる技術者が不足している食品メーカーなどからは「何として

「好奇心が旺盛」企業側エール
こうした企業側の期待に応えるために、本学側も瀬戸熊修理理事長以下の法人役員、小宮一仁学長以下の大

学副学長と研究科長・学部長、産学連携センター運営委員会と就職委員会の委員長、さらに各研究科と学部・学科の就職担当教員、就職・進路支援部就職課員らが総力を挙げて企業側の出席者に対応した。これに対して、企業側を代表して乾杯の音頭を取った八洲電機管理統括本部人事担当部長の湯本則光氏は「千葉工大の

NEWS CIT

2016 11.15
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344
<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 「数字チョコ」小田さん優秀賞/石川さんロボ相撲全国大会へ/安生、藤沼、香取さん「銀茶会の茶席」銀賞/渡辺さん学生発表賞
- 3面 a b a 3賞に輝く/菅研が高温耐久メモリー開発/金子さん養成塾で受賞/中静教授に貢献賞/学位取得者
- 4面 林原教授が「ロボカップ」講演/STAIR Labが新たな人工知能技術に挑戦/エコメッセに本学6組/好調「シンナライブ」
- 5面 スポフェス開く/寮大会も接戦/未来人「藤本正雄さん」/空手覇者・根本さん来校
- 6面 10月オープンキャンパス/クラブの活動状況

来場60万人に



タウンキャンパス開設4年半

東京スカイツリータウンキャンパス(東京都墨田区押上・東京スカイツリータウン8階)が開設から約4年半の11月7日、来場者数60万人を達成した。60万人目は埼玉県越谷市から来た小学生の太刀川翼さん(写真左)。太刀川さん親子は学校の振り替え休日を利用してスカイツリーに来て本学アイ

レアアース泥開発を推進

本学海洋資源センター参加 加藤教授が講演



講演する加藤教授

学生のイメージは、目がキラキラしていること。これは好奇心が非常に旺盛であることの表れだと思ふ。何事にも興味をもって邁進する学生を育てて頂きたい」とエールを送っていた。懇談会の中締めは松井孝典常務理事(惑星探査研究センター所長)が行った。中堅企業など「採用は未充足」「産学懇談会」の会場に当てられたホテルニューオータニ幕張の大宴会場「鶴の間」の前には、受付開始時刻の1時間も前から企業側の出席者が集まり始め、名刺交換開始と同時に受付台前には長い列ができた。このような企業側の過熱さの採用意欲の背景の一つには、中堅・中小企業を中心に2016年春入社、17年春入社と続けて採用数が採用計画数に満たしていない「未充足」状態が、今も続いていることがある。18年春入社組の就職活動日程は、「3年生の3月、会社説明会解禁」↓「4年生の6月、面接解禁」↓「10月に内定解禁」で、17年春入社組と同じ。しかし、「採用未充足」の企業の多くが「来年こそ」の思いで、大学への「太いパイプ」の構築に全力を挙げている。懇談会の会場でも就職課の職員に「OB・OG懇談会にはどうしたら参加できるか。参加条件は？」と大学主催の会社説明会にぜひ参加したいのだが」といった質問を投げかけてくる人事・採用担当者が多かった。このような状況を踏まえて、これから就職活動に入る3年生に就職・進路支援部の福江聡部長は次のようにアドバイスしている。「就職活動では、自分がチャレンジする相手企業の動向をきちんと把握することがもっとも大切です。そのために自分のアンテナをしっかりと張って準備してください」

産学懇談会第一部では東大大学院工学系研究科附属エネルギー・資源フロンティアセンター教授で、今年4月に設立された本学次世代海洋資源研究センター(ORCS) 招聘主席研究員の加藤泰浩氏が「日本の海洋資源政策はどうあるべきか」と題して講演した。加藤教授の研究グループは2012年に日本の排他的経済水域である南鳥島周辺に世界最高品位の「レアアース泥」が大量に分布していることを明らかにした。この研究を基に、東大、本学の次世代海洋資源研究センターとさまざまな企業が加わって「レアアース泥開発推進コンソーシアム」が結成された。世界初の深海底での鉱物資源開発の実現に向かって活動することにも、同センターではレアアース泥開発システムの研究を進めている。

数字チョコの優秀賞

小田さん 東京ミッドタウン デザインコンペで

デザインの若い才能を
応援する「東京ミッドタ
ウンアワード2016デ
ザインコンペ」(東京ミ
ッドタウン)事業者代表

で、小田裕和さん(工学
専攻博士後期課程1年)長
尾徹研究
室が深地宏
昌さん(デザ
イナー・大阪
府出身)と共
同提案した
「数字になる
チョココレー
ト」が、グラ
ンプリ・準グ
ランプリに次
ぐ優秀賞(1
点)に選ばれ
た。授賞式は
10月14日、東
京ミッドタウ



展示された小田さんらの作品。下は小田さん(左)と深地さん



京ミッドタウ
ンが、グラ
ンプリ・準グ
ランプリに次
ぐ優秀賞(1
点)に選ばれ
た。授賞式は
10月14日、東
京ミッドタウ

安生、藤沼、香取さん 建築3人チーム「銀賞」

「銀茶会の茶席」コンペ

共同制作した深地さん
とは昨年、Major Fairie
作品は、並び替えて好
きな数字をデジタル数字
風に作れるチョココレ
ト。誕生日や記念日に、
チョコ数字を可愛く添え
られるように、と考えた。

共同制作した深地さん
では昨年、Major Fairie
作品は、並び替えて好
きな数字をデジタル数字
風に作れるチョココレ
ト。誕生日や記念日に、
チョコ数字を可愛く添え
られるように、と考えた。

「銀茶会」銀座通り周辺
に年一回、茶席を設け、
表千家、裏千家、武者小
路千家など六流派が参加
する野点の大茶会。銀座
の店舗・企業が集まる全
銀座会の依頼で、建築学
会が2009年から学生
たちに創作茶席を募集、
金賞作品は銀座三越で展
示され、大茶会の茶席に
使われる。

ロボ相撲 全国大会へ

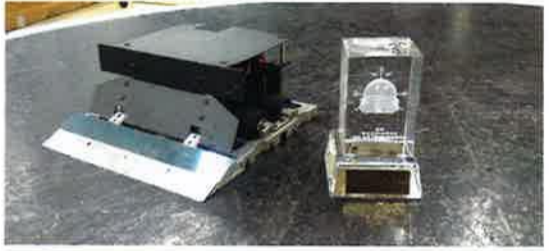
石川さん 東北大会で優勝

第28回全日本ロボット
相撲東北大会(10月23
日、秋田県立横手清陵学
院高)で開催。富士ソフト
(株)主催の「全日本の部」
・ラジコン型で石川瑛
丈さん(未来ロボティク
ス学科3年)が優勝して
東北横綱になり、12
月18日に東京・西園国技
館で開かれる全国大会へ
の出場権を獲得した。

東北大会には約1000
名のロボットが参加。石
川さんはトーナメントで
5回勝ち優勝を決めた。
ロボット相撲は直径1
・54cmの鉄板製土俵で対
戦、相手を土俵外に押し
出す。鉄板土俵に張り付
く。鉄板土俵に張り付



石川さん(上)とラジコン型の愛機。下は対戦風景



出せば勝ち。平成元年に
始まり、高校生の部、全
日本の部にそれぞれラジ
コン型、自立型の2部門
がある。全国9地区の地
方大会で毎年約千台のロ
ボットが全国大会出場を
かけて戦う。

くよう磁石を多用する
が、ただ磁力を強くして
も勝負強くないとい
う。石川さんは今回、磁
石の吸着性を保護する機
構を搭載し、技術十戦術
のアイデア勝負といわれ
る同大会を制した。

制限重量内で多機能
を持たせようと、部品は軽
量で複雑な形状になりが
ちだ。石川さんは、最先
端の工作機械約50台が並

ぶ工作センター(津田沼
校舎4号館)で、ワイヤ放
電加工機やウオータージ
ェット切断機を使い部品
を加工、これが優勝に大
きくつながったという。



渡辺さん 学生発表賞

リフォーム研究 インテリア学会で

日本インテリア学会の
第28回大会(10月22、23
日、名古屋工業大)で開
催。論文発表部門で、
渡辺ひかりさん(デザイ
ン学科4年)白石光昭
研究室・写真)が「マン
ションリフォームの現状
から見た間取りの変化」
を口頭発表し、学生発表
賞2組の1つに選ばれ
た。

白石研では、製品や空
間の使いやすさ、心地よ
さなどを人間工学・感性
工学から研究・提案して
いる。渡辺さんは、マン
ションが実際のマンション
リフォームされているか
を調べ、人々が暮らしに
求める現状を知ろうとし
た。

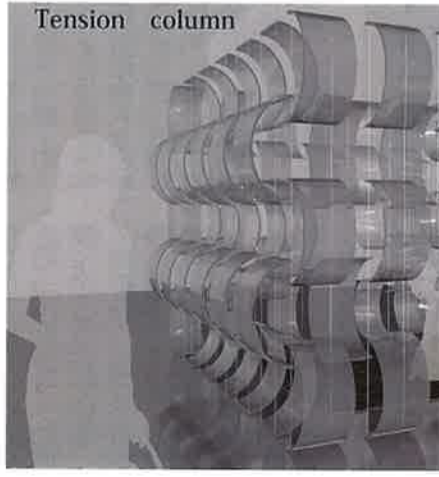
「初めての学会発表で
緊張しましたが、形に残
る結果となり、とてもう
れしかったです。このテ
ーマを卒業研究としても
続けていくつもりなの
で、更に精進したい」と
渡辺さんは語った。

安生、藤沼、香取さん 建築3人チーム「銀賞」

「銀茶会の茶席」コンペ



受賞した安生さん(前列右端)、香取さん(後列左から2人目)、藤沼さん(同3人目)。下はその作品(説明パネルから)



環境学科4
年)ら
3人チーム
の作品が銀
賞を受賞し
た。10月2
日、建築会
館(東京都
港区芝)イ
ベント広場
で開かれた
2次審査で
選ばれ、表
彰された。

茶室は柱と梁が支える
の圧縮力を、張力構造
の構成に変えた新空間を
提案した。
ぎりのりに薄い(厚さ
1cm)透明な塩ビ板を弧
状に曲げ、5枚組み合わ
せてユニットに。これ
をさらに重ねてケープル
でつなぎ、張力による4
面の壁を生み出した。1
時間不足、夏休みも
ほぼ毎日研究室へ。思う
ような結果が出ない時期
もあって悩んだが「白石
教授の指導のおかげで、
なんとか完成」したとい
う。

日本建築学会が学生に
創作茶席を募集した「銀
茶会の茶席」で、本学の
安生仁さん(建築都市
環境学専攻修士2年)多
田修二(研究室)、藤沼悠
生さん(同1年)同、香
取佑弥さん(建築都市

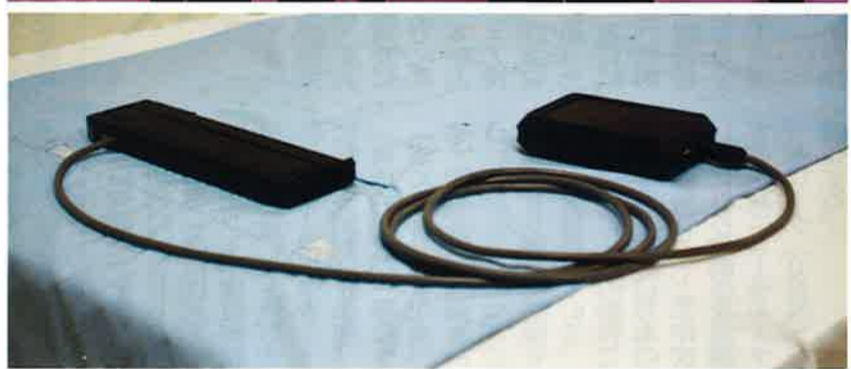
環境学科4
年)ら
3人チーム
の作品が銀
賞を受賞し
た。10月2
日、建築会
館(東京都
港区芝)イ
ベント広場
で開かれた
2次審査で
選ばれ、表
彰された。

環境学科4
年)ら
3人チーム
の作品が銀
賞を受賞し
た。10月2
日、建築会
館(東京都
港区芝)イ
ベント広場
で開かれた
2次審査で
選ばれ、表
彰された。

環境学科4
年)ら
3人チーム
の作品が銀
賞を受賞し
た。10月2
日、建築会
館(東京都
港区芝)イ
ベント広場
で開かれた
2次審査で
選ばれ、表
彰された。

aba 3賞に輝く

▶ 排泄検知シート「Lifi」で



「Lifi」は写真上「寝たきり被介護者のオムツ交換について、介護者は排泄タイミングが分からないため排泄の有無にかかわらず定時交換で対応。2割は空振り交換と調査され、時間ロスが介護者に負担となっている。Lifiは、臭いや気体中の成分変化に反応する安価なセンサーを活用、独自のアルゴリズムで排泄の有無を検知し、介護者にタブレットなどで通知する。実証テストで成果が確認され、TECH LAB PAK第3期「TechCup Japan」賞を受賞。当時の名称「Lifi」を「Lifi」に改名して現在、提携関係にあるパラマウントベッド(株)と量産へ向け協議しており、来春にも本格販売できる見込み。

賞のトリプル受賞に輝いた。JT賞は「介護現場を丁寧にも技術シーズのビジネス化を応援するもの。プレゼンテーションでは宇井代表が説明、ディープテックグループでは秋庭裕さん(未来ロボティクス学科4年)と大川茂樹研究室・同左)が説明に加わった。「Lifi」の開発について、Tech Lab PAKは「臨床実験を重ねて、着実に前進している」、JT賞は「介護現場を丁寧に調査し、技術視点だけではたどり着かない課題解決策にたどり着いているビジョン」、サントリー賞は「現場に真摯に向き合っている」と評価した。

本学発ベンチャー企業(株)aba(代表・宇井吉美さん)工学専攻博士後期課程1年・写真右の介護用「臭気センサー」による排泄検知シート「Lifi」改め「Lifi」(リフィ)が「第4回ディープテックグランプリ2016」(9月10日、東京

都江東区豊洲の日本ユニシス社で)リバネス(主催)でJT賞とサントリー賞を、「Tech Lab PAK」(テック・ラボ・パーク)第5期(9月27日、東京・渋谷の「Tech Lab PAK」(リクルートホールディングス運営)ではアンカスター

宇井さんは「介護現場での実験が大変だった。Lifiは夜間帯も使用するの、泊まり込みの実験と、日中業務を平行するのが本場に大変だった」

電子情報通信学会のサイエティ大会(9月20〜28日、北海道札幌市の北海道大で開催)で、本

学で開いた国際会議を運営

学情報通信システム工学科の中静真教授(写真)が、基礎・境界サイエティ分野の貢献賞(国際会議を贈られた。

中静教授は、通信と信号処理、コンピュータシステムに関する会議であるスマートインフォメディア・システムズ・イ



菅助教(奥)と(前列左から)鈴木さん、柏原さん、篠村さん。右は開発した高温耐久メモリー

世界初 600度超で記録動作

▼ 菅研究室 高温耐久メモリーを開発

千葉工大と国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)・物質・材料研究機構(物材機構)は10月11日、セ氏600度でも動作する不揮発性記憶素子(電源を切っても記録情報が失われないメモリー)の開発に世界で初めて成功したと発表した。

菅助教は「学生たちの奮闘と大学のサポートに感謝したい。今後は1ナノメートルの領域に注目して現象をより精密に制御するなど、大学らしい基礎研究に取り組むたい」と話している。

通常の半導体メモリーは高温で固体内の電子伝導を制御できなくなるため、200度程度で情報書き込みも保持もできなくなる。菅研の新技術はナノメートルの隙間(ナノギャップ)に起こる量子効果で電子伝導を制御するため、非常に高い温度でも動作する。

この技術はフライトレコーダー、惑星探査機など高温下でデータ保護が

も安定に情報を書き込むことができ、セ氏600度で8時間以上情報を保持できることを確認した。フラチナ単結晶を用いてナノ構造を作る千葉工大の技術と、学生たちが繰り返し実験して得たデータが、成果に大きく寄与した。

菅助教は「学生たちの奮闘と大学のサポートに感謝したい。今後は1ナノメートルの領域に注目して現象をより精密に制御するなど、大学らしい基礎研究に取り組むたい」と話している。

菅助教は「学生たちの奮闘と大学のサポートに感謝したい。今後は1ナノメートルの領域に注目して現象をより精密に制御するなど、大学らしい基礎研究に取り組むたい」と話している。

菅助教は「学生たちの奮闘と大学のサポートに感謝したい。今後は1ナノメートルの領域に注目して現象をより精密に制御するなど、大学らしい基礎研究に取り組むたい」と話している。

菅助教は「学生たちの奮闘と大学のサポートに感謝したい。今後は1ナノメートルの領域に注目して現象をより精密に制御するなど、大学らしい基礎研究に取り組むたい」と話している。



金子さん養成塾で受賞

「働く意味」学んだ3カ月

就活学生のための一次代人財養成塾「キャリア・ワンウィル」第6期(7月2日〜9月3日、東京・銀座の(株)秀實社などで研修)秀實社主催、

第6期研修には約50人が参加。自己啓発セミナーや、成功した実業家らの講義を通して「働く意味」を学び、3年後の自身の将来像や実現計画を

「未来創生新聞」にまとめた。修了式では選ばれた塾生が未来創生新聞を発表。その内容や成長ぶりから6賞8人が選ばれた。

金子さんは受賞を「3カ月の短期間で積極的に学べるものを学ぼうとしたからだと思います。志の高い学生や企業人と出会って、思考や行動が変化し、社会へ出る期待や自信を持てるようになりました」と話した。

中静教授に貢献賞

▼ 本学で開いた国際会議を運営



学情報通信システム工学科の中静真教授(写真)が、基礎・境界サイエティ分野の貢献賞(国際会議を贈られた。

中静教授は、通信と信号処理、コンピュータシステムに関する会議であるスマートインフォメディア・システムズ・イ

中静教授は「通信と信号処理、コンピュータシステムに関する会議であるスマートインフォメディア・システムズ・イ

中静教授は「通信と信号処理、コンピュータシステムに関する会議であるスマートインフォメディア・システムズ・イ

学位取得

東京工業大博士号(工学) 9月20日

入江清・未来ロボット技術研究センター(fu-robot)主任研究員

▽学位論文「Mobile Robot Navigation Using Statistical Dependence (統計的依存性を利用した移動ロボットのナビゲーション)」

入江主任研究員は、移動ロボットや自動運転車が地図の準備なしで自律

走行できる研究を進めている。今回、自己位置推定やセンサー校正について、統計的依存性を利用したセンサーデータの位置合わせを応用することで従来よりも優れた性能を持つ手法を開発した。

走行できる研究を進めている。今回、自己位置推定やセンサー校正について、統計的依存性を利用したセンサーデータの位置合わせを応用することで従来よりも優れた性能を持つ手法を開発した。

「技術と人材育てるロボカップ」

▼未ロボ・林原教授 ユニバーサル未来社会へ向け講演

本学未来ロボット技術研究センター(fuRo)と文部科学省が共同で事務局を務める「ユニバーサル未来社会推進協議会」のワークショップが10月21日、東京ビッグサイトで開催され、未来ロボット工学学科の林原晴男教授が来月7月に名古屋市で開かれるロボカップ世界大会に向けて、ロボカップの意義と本学の取り組みなどを語った写真。



発信しようという国家プロジェクトを推進している。一方「2050年にサッカーの世界チャンピオンに勝てる自律型ロボットのチームを作る」という目標を掲げるロボカップの第1回世界大会は、1997年に名古屋市で開催された。21回目となる2017年名古屋大会は2020年に最先端ロボットが活躍するユニバーサル未来社会の姿を証明して見せようというプロジェクトの「プレイベント」としての意味も持つ。ワークショップでは、その子科学技術・学術政策局研究開発基盤課長が「千葉工大はロボカップの大変な強豪校」と紹介。林原教授は、本学が2006年に未来ロボティクス学科のチーム「Eコマッセ2016 in ちば」が9月22日、幕張メッセ国際展示場で開かれた。

本学6組が「環境」出展

「Eコマッセ2016 in ちば」



④ 県内の河川環境を説明(村上研) ⑤ フィールド活動を展示(五明研)



⑥ フィールド活動を展示(五明研)

進めるキーテクノロジの開発と、そのキーテクノロジを扱える人材を育てるという面でも非常に役に立っている」と、参加者に熱く語りかけた。

なお、「ジャパンロボットウィーク2016」に出展された「ユニバーサル未来社会推進協議会」のブースでは、未来ロボティクス学科米田研究室の奈良林大輝さん(3年)、伊東健明さん(4年)、花田百優さん(2年)が説明員を務めていた。

組が研究成果を展示した。雨天にもかかわらず会場には約8500人が訪れた。

★村上研「バイオ・エコシニアリングを活用した環境保全、特に微生物生態学の立場から水環境の保全を研究。今回は4年生11人の研究成果をパネル展示し、▽生物指標による県内河川環境マップの作成▽谷津干潟(船溜り)の環境調査▽海浜公園ポット池の24時間モニタリング調査▽湖沼版水環境健全性指標の開発▽マイクロプラズムを用いた「試験法の提案」などを発表。各種ミネラルウォーターを飲み比べる「利き水」を催し、硬度分析を演じた。

★五明研「4年生11人の研究成果と、研究室が進める千葉県内を中心としたフィールド活動を集めた▽中小河川での生物調査や竹林運営経験に基づいた環境教育▽房総半島におけるボタルの生息環境調査、サーモカメラによる変温動物の体温特性分析▽箱庭模型を応用した環境コミュニケーション▽印旛沼での視覚化手法を用いた環境評価および外来魚対策▽千葉県内環境NPOの分布特性およびチーバくんの健康診断▽多摩川河口干潟におけるトビハゼの生息環境、ヤマトシジミの潮干狩り場としての分析」をパネル展示。併せてチリメンモンスターのお試しコーナーを提供した。

★CITものづくり廃棄食品由来の学内燃料生成プロジェクト「学食から廃棄された廃食用油から製造したせっけんを原料に、参加者の好みの香りを付けた透明せっけんづくりワークショップ」を開催。子どもも含めた参加者と廃食用油のリサイクルを実感した。

★CITものづくり89-lab PC班「自転車型発電装置に電動車を接続し、発電量の見える化体験を試みた。駆動部分に不具合があり体験はできなかつたが、発電装置やエネルギー変換について参加者と意見交換できた。廃油利用と発電の両代表者は午後から開かれた千葉県主催の3Rシンポジウムで講演。70人を超す参加者を前に活動状況を紹介します。議論することができた。

このワークショップは2年に1度開かれるロボット技術の専門展「ジャパンロボットウィーク2016」の企画の一環。同協議会は2020年の東京五輪・パラリンピック開催に併せて、先端ロボット技術を使った夢の未来社会の「美証ワールド」を各地に送り、シヨケース化して世界に

このDNN開発をさらに進めて、▽短い動画を捉え、それを言語化(文章化)する▽長い動画を捉え、その中に含まれる出来事についての質問に回答する段階へとDNNモデルを進化させる。

このDNN開発をさらに進めて、▽短い動画を捉え、それを言語化(文章化)する▽長い動画を捉え、その中に含まれる出来事についての質問に回答する段階へとDNNモデルを進化させる。

▽「環境科学研究会」(代表・村上教授)▽同社会環境研究室(五明美智男教授)▽化学第4実験研究室(谷合哲行准教授)▽CITものづくりプロジェクトの2チーム(廃棄食品由来の学内燃料生成プロジェクト、ミネラルウォーターを飲み比べる「利き水」を催

ヤズ・トランペッターとして活動している内海教授が、ジャズの歴史と楽曲構成、基本となる音楽理論、即興演奏とエンジニアリングデザイン能力の関係などについてミニレクチャー。内海教授ならではの生演奏も交え、楽しい講演となった。

11月14日には、東條晃次・教育センター教授の「等質空間」行列を使って球面を表現してみる、12月1日には東山幸司・同准教授の「原子核物理学でせまるニュートリノの秘密」と、魅力あふれる講座が続く。

細かな動作認識へ

人工知能 STAIR Lab が開発に挑戦



10万本の動画を深層学習させることによって人の多様な動作を高精度に認識させる。これまでになく技術の発展に、本学人工知能・ソフトウェア技術研究センター(STAIR Lab)が挑戦している。その概要が10月5、6日に幕張メッセで開かれた新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の展示会「ボスター発表された」写真。

「きめの細かい動作認識の開発する。」

好調「シンナライブ」

▼魅力あふれるミニ講義



新習志野キャンパスの図書館前で先生方がミニ講義する「シンナライブ」が好評だ。図書館事務課が教員と「協働」して昨年始めたもので、昼休みの30分間、普段の授業では聞けない先生方の「取って置き」講義を、聴ける。

第9回の10月26日は、内海秀幸・都市環境工学科教授の「モダンジャズの楽しみ方とエンジニアリングデザイン」。

アマチュアのモダンジャズ・トランペッターと内海教授の「原子核物理学でせまるニュートリノの秘密」と、魅力あふれる講座が続く。

スポフェス熱戦!

▼ 新体育館で球技、ゲーム



テニスに、バスケットボールに



元気の奮闘の寮生たち

寮大会も接戦

▼ 秋のスポーツ大会に各階チーム

学生寮・秋のスポーツ大会が10月23日(日)、寮隣接コートや新体育館で開催された。寮生の交流の輪を広げようと寮長の加藤大晴さん(電気電子情報工学科3年)らが企画したもので、夏の大運動会とは一味違った競技内容。

種目はバドミントン、テニス、サッカー、バスケットボール、ドッチボール、ソフトボール。接戦が続き、会場は声援で沸きあがった。寮の運動会は、階ごとにチームを組む。異なる学年間の交流を促すため、これによって各フロアの団結力も増している。

競技を終えた寮生たちは「高校の球技大会を思い出した!」「負けたけど楽しめました!」対戦相手と、またテニスをすることになり「また」など感想を述べていた。

発見! 未来人

株式会社第一エレクトロニクス 技術開発部

藤本 正雄さん

2000年、大学院電子工学専攻修了

在学中は、平面型送受波器アレーを用いた砂中水分率の測定に関する研究に取り組みました。超音波パルス反射法とニューラルネットワーク情報処理を併用し、静止砂面中の水分率を認識させる方法の考案です。

大学の親善交流団の一員として中国に行き、哈爾濱工業大学の学生と交流したことが強く印象に残っています。先方の学生たちの多くが日本語を話せることに驚きました。北京や上海、西安にも行きましたが、特に万里の長城からの壮大な景色や故宮の想像を超える広さに、広大な国土面積を誇る中国を実感しました。

現在は、主に当社のデジタル計測器

事業内容 電気計測技術をベースに、アナログからデジタルまで、計測から制御、保護まで、そして表示から伝送、通信までと展開しつつ、さらなる市場のニーズに応えるべく、心のこもった製品をお届けしています。

所在地 〒121-8639 東京都足立区一ツ家1-11-13



技術開発部で藤本さん

や制御機器に使用される製品個別のパソコン用ソフトウェアの設計開発を担当。製品仕様の作成からプログラムのデバッグに至るまでの一連の設計業務を行っています。当社ではまだ確立されていない分野で、ハードルも多いが、その分やりがいがあります。

当社は1人1人に任せる風土があり、若手も比較的さまざまな仕事を任せてもらえます。千葉工大のOBも多く、上司との風通しもよいので、仕事で困ったことやトラブルが起きた場合でも相談しやすい環境です。



フットサル男女の熱戦



釣りゲームやスタッキング



変更が増え、企画・実施の関係者は一層、運営に力を入れることができた。フットサルコートに人工芝が張られ、新築の体育館では天候を気にせず競技が可能に。喜ばしい。



バドミントン、バスケットボール



全国空手覇者 根本敬介さん来校

▼ 理事長、学長らに成績報告

第59回内閣総理大臣杯全国空手道選手権大会(9月25日、幕張メッセ・イベントホールで開催)の一般男子個人戦・組手で優勝し内閣総理大臣杯を獲得した本学卒業生・根本敬介さん(写真中央)が10月4日、津田沼校舎を来訪、瀬戸熊修理事長、小宮一仁学長に成績を報告した。根本さんはプロジェクトマネージャ(PM)学科に在籍し、体育会空手道部に所属。数々の大会で好成績を残し、平成14年に卒業した。その後、22年の第53回同大会で内閣総理大臣杯に輝き、以来55、56、58、今回59回と5回優勝(57回は準優勝)を重ねている。今回同種目3位の岡田泰典さんも本学の卒業生(19年・PM学科)だ。

全17学科がミニ講義

10月オープンキャンパス

秋晴れの10月23日、模擬授業を中心としたオープンキャンパスが津田沼校舎で開かれ、受験生・父母ら1572人が来場した。

パスは、本学教員によるミニ講義を開催。全17学科、計34コマのユニークな講座で、学びの中から学科の特徴をつかんでもらおうというもの。受験生に限らず高校1、2年生や保護者たちも受講した。

また、一般・センター入試説明会や推薦入試説明会&対策講座、ワークゼンターやコンピュータ演習室での体験講習、キャンパス内を効率よく案内するキャンパスツアーも開催。携わった学生たちの対応ぶりに好感が持たれ、という感想が多く寄せられた。

7月には今年最後の「千葉工大生が選ぶCITスポット」は展示ブースを設け、内容をバージョンアップ。新習志野キャンパスや津田沼キャンパス、西浜運動場など構内おすすめスポットを写真で紹介した。

7号館の1フロアにはクラブ・サークル、チバテックコ、学食ランチメニューなどのコーナーや展示物が所狭しと飾り付けられた。来場者は「学生たちが楽しそう!」という他、キャンパスの様子もわかってうれしい」など、たくさん感想を寄せた。



全体説明会



学科のミニ講義風景



「千葉工大生が選ぶCITスポット」



キャンパスツアーで道順などを説明

クラブの活動状況

文化会	期間	大会・発表会名
フォークソング研究会	10/16	工大企画
フィッシャークラブ	10/2、11、12、22、23	2016年度全日本学生釣魚連盟関東支部へら鮎釣り大会、磯&船釣り、新三役就任釣行
陶芸研究会	10/15	七輪陶芸
天文研究部	10/18、25	天体観測
電気研究部	10/8、9、16	第37回全市全部コンテンツ、第31回オール千葉コンテスト
鉄道倶楽部	10/9、15、16、22、23	国府台自動車学校出張運転、真砂コミュニティふれあいまつり 出張運転、千葉トヨペット60周年イベント
ソフトメディア研究会	10/22、23、30	千葉トヨペット60周年イベント、M3音系・メディアミックス同人即売会
総合工学研究会	10/23、11/5、6	ロボット操作体験、ROBOT GENERATION、理工展 ロボット大会
写真部	10/5~16	新人展
茶道部	10/8、9、16、23	工大祭茶会、もみじ茶会、和洋茶会、神無月茶会、茶会、櫻門茶会、六十周年記念茶会、定例茶会、芝浄慶茶会
航空工学研究会	10/22	交流会
機械工学研究会	10/23	元ビックミニバイクレース 第4戦 コース1000
環境科学研究会	10/23	水環境調査

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に動んでいます。定期的ないろいろなクラブの活動状況をお知らせしています。



在学生に聞いてみようコーナー



①親子が学食で ②推薦入試説明会



12月には今年最後の「千葉工大生が選ぶCITスポット」は展示ブースを設け、内容をバージョンアップ。新習志野キャンパスや津田沼キャンパス、西浜運動場など構内おすすめスポットを写真で紹介した。

編集だより

前々から気になっていたふるさと納税。なかなか挑戦するには至らなかったものの、「美味しいもの食べられて、しかもお得ですよ!」と、同僚からの一言が決めてとなり、食いしん坊の私は、今年ふるさと納税デビューをすることになった。



ふるさと納税とは、好きな地域(都道府県・市区町村)への寄附のこと。寄附をすると、税金が控除されたり、寄附金の使い道を指定して地域を応援できたり、さらには寄附した地域からお礼の品として美味しいお肉やお魚などがもらえる。しかも寄附の仕方は通販などで簡単に。時期的なこともあり、今年度は栃木県と千葉県(地元のみに納税は留ま

ったが、地元から届いたお礼の品のお米はパッケージに「月の砂漠」をモチーフとしたラケットと大きな月。月が少し欠けてお米の形をしているニクイデザインだ! しかも、この粋なデザインをしたのは、本学デザイン科学科の学生という。秋の夜長、月を見る機会もないけれど、こんな出会は嬉しい。 入試広報課 大橋 慶子

四季雑感



最近になって、夜空を仰ぎ見る機会が多くなった。というのも今年の夏に御宿研修センターで行った、公開講座「星空教室」で夜空にひろがる星座を観て、感動したからだ。

普段、街の中で夜空を見上げて、街頭の明かすことまで、土星も観ることができた。

夏に限らず、これからの冬の季節には空気が澄むことも多く、星が綺麗に見える機会が増える。昔、小学校で習った星座の名前を思い出しながら星を眺めるのもいいのだ。 皆さんも、ぜひ夜空を眺めて自然の美しい星を観てください。きつといいことがあると思います。 産官学融合課 富内 直樹

りやビルの照明などで星が見えないことが多く、星を観る機会もあまりなくなっていた。

しかし、御宿研修センターの庭から見上げる夜空には、とても美しい星空がある。はちちょう座、わし座、さそり座、明るい星が星座の名前で呼ばれている。天気がよい夜には満天の星、星が降って来る感じがする。 昨日は望遠鏡から星を観ることもでき、土星も観ることができた。

同窓会

新米の季節になり、店頭には日本全国のお米が並びます。千葉県は関東一の早稲米の産地で、良質なコシヒカリが生産されています。

昨年4月からはいすみ市において学生たちと水田をはじめました。耕作放棄地を土づくりからはじめ、無農薬・無肥料で

森林からの物質供給のみで米作りに励んでいきます。最近では、ノケシヨ(農系女子の略なる言葉)を耳にするようになりました。私の研究室にもノケシヨがいて、私が大学生だったころに読んだ『夏子の酒(尾瀬あきら作)』の主人公を彷彿させます。 今年4月からはいすみ市において学生たちと水田をはじめました。耕作放棄地を土づくりからはじめ、無農薬・無肥料で稲穂かな。 応用化学科 矢沢 勇樹